

日本に自動車を運転するために訪れたら恋におちた

3年 竹越 ほんか

I went to Japan to drive cars, and fell in love with trains.

これは2018年6月21日にAOL傘下の米国ミシガン州を拠点とする自動車情報サイト「Autoblog」に掲載された記事である。私は世界でも注目を浴びる日本の電車について発信していきたいと考える。日本の電車はなぜあんなに正確なのか。1分も遅れないのは一体どういうことなのか。外国人が日本へ来たら、たいてい一度は電車に乗るだろう。そうすると、自然と母国との違いを感じるだろう。「定刻通り」というのは、本当にわかりやすい違いだ。インドやカンボジアの列車やバスは、2~3時間遅れは当たり前であり、日本の時刻表というものを見て驚くという。ヨーロッパや他のアジアの国々も時刻表というものがある国は少なく、ましてや正確に来ることを奇跡とまでいう。日本では、電車の到着が3分遅れただけで、「ご迷惑をおかけして、大変申し訳ありません」といった謝罪のアナウンスが駅に流れる。このことに驚く外国人も多い。

2017年11月17日、日本の鉄道会社が20秒早く発車したことをHPで謝罪し、関心を示した欧米メディアが翌日、相次いで報道した。鉄道会社が謝罪しただけなら日本ではニュースにならないだろう。しかし、欧米では、いろいろなメディアがこれを取り上げていた。ニューヨークの新聞は「これは問題か」と不思議そうに記事で伝えていた。イギリスBBCやアメリカのFOXは、日本の鉄道が時間厳守で運行されていることについて「日本に関して最高のことのひとつだ」と紹介していた。日本人にとっては、鉄道会社の謝罪よりも、欧米人の受け止め方のほうに驚くだろう。

また、日本の電車の正確さが海外に驚かれるもう一つの理由として、ラッシュ時における山手線、埼京線、湘南新宿ラインなどの電車の本数が影響しているだろう。始発は午前4時20分。4時台はまだ朝早くということもあり、電車の本数はまばらながら、5時を過ぎると徐々に増え始め、6時30分を回るとかなり活発に動き出す。以後も増加は止まらず、ピークになる8時~9時には、2分に一本単位の、ほとんどスペースがないような状態になっている。言うまでもなく、東京はさらに地下鉄や私鉄なども走っているのだから、一部だけでもすでに多くの外国人にとって理解を越えた領域だろう。この本数にして、一分一秒遅れない電車は、日本のとても魅力的な部分とっていいだろう。

戦前の日本の電車は、運転時刻の正確さが世界的に評判であり、誇りであった。日本を旅行するためには、鉄道が寸秒も変わらず運転されるため車中で時計は不必要だと外国人は日本の鉄道を褒めた。しかし、この大きな名誉の正確さも、明治5年からあったわけではなく、外国人から教わったものでもなかった。明治30年代、列車は相当遅れていた。1974年「日本国有鉄道百年史通史編」「鉄道を育てたひとびと」によると、第一次世界大戦を経て日本の近代化・工業化は一層進んだ。1910年代から1920年代に取り入れられた様々な新技術が、現代に繋がる日本の鉄道の基礎を確立した。そして、1930年代に入る頃には「時間に遅れない日本の鉄道」という評価が少しずつ定着していった。鉄道先進国であるアメリカやイギリスで用いられていた技術を、必要に応じて取り入れ、組み合わせ、使いこなすことで、日本の環境にベストマッチした独自の鉄道システムを作り上げてきたのだろう。日本人は遅れることなく到着することが当たり前であると考えているが、この

ような気持ちをつくったのも日本人であるなら、この魅力を海外に発信していくほかない
だろうと考える。